

根こぶ病抵抗性品種「CR はなっこりー 1 号」の育成

「はなっこりーE2」に根こぶ病抵抗性を付与して開発した「CR はなっこりー 1 号」は、年内生産用の極早生品種であり、これまでの極早生品種と同等以上の収量性と省力性を備え、根こぶ病蔓延ほ場でも罹病しない。

成果の内容

1 「CR はなっこりー 1 号」（図 1）の早晚性について

定植後 22 日～25 日で頂花蕾の摘心となり、その約 7 日後から収穫が始まる。摘心と収穫開始タイミングは「はなっこりーE2」と同じ極早生品種である（図 2）。

2 収穫 40 日間における収量性について

- (1) 根こぶ病に汚染していないほ場条件で、「CR はなっこりー 1 号」は 180kg/a と「はなっこりーE2」に比べて同等以上の高収量が得られる（図 2）。
- (2) 根こぶ病が蔓延するほ場条件で、「CR はなっこりー 1 号」は 190kg/a の高収量が得られる一方で、「はなっこりーE2」は根こぶ病に罹病したため、「CR はなっこりー 1 号」に比べて 4 割程度も大きく減収する（図 2）。
- (3) 収穫花茎の平均 1 本重は「CR はなっこりー 1 号」の方が「はなっこりーE2」より重く、収量性が高い要因となっている（図 3）。

3 省力性について

はなっこりーは収穫時に開花していると、出荷調製時に開花した花の除去作業が必要となる。「CR はなっこりー 1 号」は収穫時の開花率が低いことから、「はなっこりーE2」より省力的な品種である（図 4）。

4 根こぶ病抵抗性について

図 5 に示すように、根こぶ病が蔓延しているほ場に定植しても罹病しない。

成果の活用面・利用上の留意事項

- 1 根こぶ病汚染圃場だけでなく、非汚染圃場でも「CR はなっこりー 1 号」はこれまでの極早生品種「はなっこりーE2」と同等以上の収量性および省力性があるので県内全てのはなっこりー産地において年内収穫作型で活用できる。
- 2 暑い時期の作型となるので、定植後から収穫を終えるまで十分なかん水を行う。
- 3 摘心遅れは収量の減少原因となるので頂花の出蕾確認後に速やかに摘心を行う。
- 4 収量が増加することにより、これまでの施肥体系では収穫後半に肥料がきれるので、基肥を 2 割程度増量または摘心 3 週間後に追肥をする。

具体的なデータ



図1 「CR はなっこりー1号」の草姿（左）と収穫物（右）

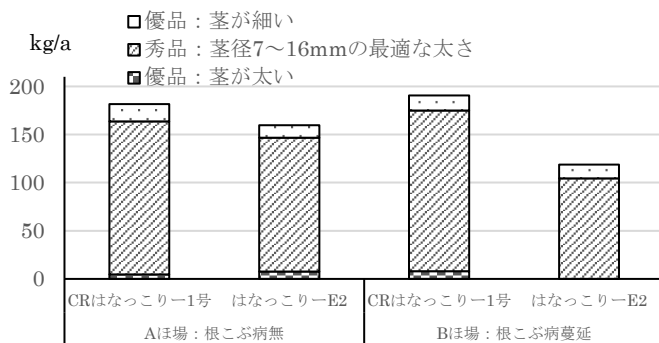


図2 2023年度各ほ場における規格別収量
Aほ場：E2、CR共に8/29定植、9/22摘心、9/29～収穫

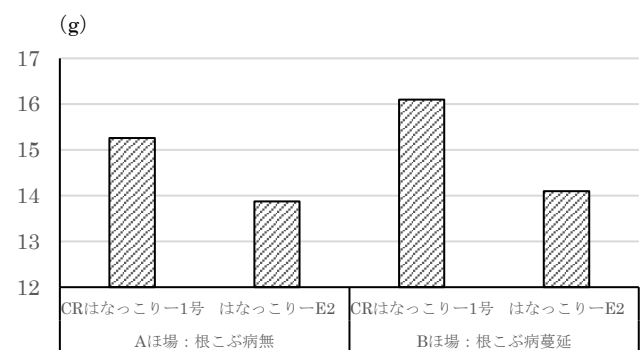


図3 収穫した花茎（秀品：茎径7～16mm）の1本重

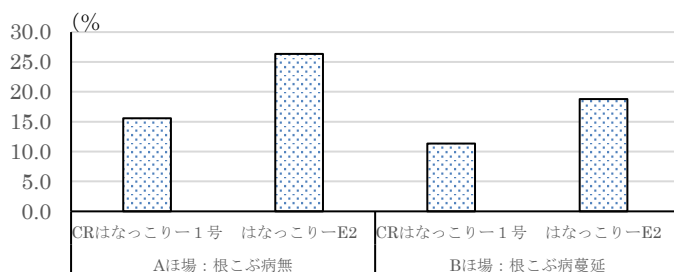


図4 収穫時に開花のあった花茎の割合
数値が低いほど、調製時の開花花の除去作業が減少



図5 根こぶ病汚染ほ場における栽培後の根の状況 左：「CR はなっこりー1号」
右：「はなっこりーE2」

関連文献等

- 1 藤井宏栄. 2025. 根こぶ病抵抗性「CR はなっこりー1号」の育成. 山口農総技セ研報. 16. 1-11.

研究年度	平成30年～令和5年（2018年～2023年）
研究課題名	根こぶ病抵抗性品種「CRはなっこりー」の育成
担当	農林業技術部 農業技術研究室 藤井宏栄・西田美沙子（環境技術研究室）・原田浩介・刀禰茂弘・森岡龍治